

退職者あいさつ



副センター長
新生児科

に い だ ゆういち
新飯田 裕一

1980年4月に札幌医大小児科に入局後いくつかの関連施設で小児科研修を終えて、1987年10月より小樽市銭函にあった北海道立小児総合保健センターで新生児専門医としての生活が始まりました。銭函での20年間および2007年9月1日に開設したコドモックルでの10年間、北海道職員としてあっというまの30年の月日が過ぎた感です。

ゆっくり思い起こせばこの間に大なる波乱の人生をきてきたことがわかります。楽しい事もたくさんありましたが公私含めてつらい経験もしました。30年間の新生児科医としての生活の中で最後の4年間は本格的な管理

職中心の生活でした。この間管理者の一人としての病院経営の新たな視点を学ぶことができました。どのような仕事内容であれ、どのような生活状況であっても広い意味での社会勉強として積極的に関わり乗り越えてきました。

年齢を重ねるにつれて良い仕事をするためには健康の自己管理をしなければならないことがわかってきました。私の場合この世にアルコールが存在しなくても構わないのですが、炭水化物摂取をいかに少なくするかの課題と現在も戦っています。「炭水化物が人類を滅ぼす」という新書を読んで目からうろこが少し落ちました。

銭函時代と比較してコドモックル時代のすぐれていることは医療と療育が一体的に行える施設であること、医療の内容として小児内科部門以外にほとんどの小児外科部門があること、児童精神科医が常勤していることです。

北海道の医療と療育の最後の砦、臨床研究実践の場、医療と療育を目指す若人の研修施設としてさらなる発展を期待して見守りたいと思います。



看護部長

はたけやま けいこ
畠山 恵子

北海道職員となったのは、銭函にあった旧小児センターが始まりでした。3年前にコドモックルへの異動の話があった時は、センターを異動してからかなりの長～い年月が経っており、もう一度こども病院で働けるとは思っていなかったのが非常に驚きでした。いざ着任し、改めて職員のみなさんとお会いすると、その当時に一緒に働いた方や顔見知りの方が何人もおり、お互いにそれなりの年月は経ってはいましたが、あっという間にタイムスリップし、楽しかった事が思い出されました。感傷に浸っていられたのはつかの間で、またまたあっという間に現実に引き戻され、あっという間の3年間でありました。

この3年でセンターの運用状況はずいぶん変わってきたと実感しています。入院患者像の変化は言うまでもな

いことかと思えます。当時の看護部目標は、働きやすい環境を整備すること、看護師充足率100%でした。今は業務整理と応援体制が整備されて来たことで、時間を有効使用する意識に変わってきたように感じています。平成28年度の育児休業取者は16名でした。子育てしながら働ける環境になってきているのではないのでしょうか、ちなみに臨時看護職員は数日で退職した方もおりますが、延べ22名を採用し充足率は98%前後でした。

次年度の看護部目標は「やさしさをベースにした看護」がキーポイントです、患者・家族はもちろん、仲間や自分にも是非やさしさを片隅においてお仕事をさせていただきたいと思えます。平成29年度からは経営形態の制度が変わり、組織や人事に関する運用がすみやかになるということです。それらがセンターの追い風となり、子ども達に更により良い医療が提供できることを期待しています。

最後に・・・子どもたちやみなさんと楽しい3年間を過ごさせてもらいました、本当にありがとうございました。

テレビゲーム・オンラインゲームとのつきあい方

発達支援センター長
小児精神科

さいの ひとし
才野 均

「放課後はゲームばかりしています。どうしたらいいでしょう」という相談が少なくありません。全国的な調査でも、テレビゲーム・オンラインゲームが小学生の好きな遊びの1位となり、帰宅後に児童生徒がテレビゲーム・パソコンをする時間が平均1.5時間におよぶと言われています。そして、ゲームのやりすぎによる子どもの心身の発達への悪影響（社会性の低下、攻撃性、肥満、体力の低下、視力の低下など）が明らかとなり、対策としてゲームの時間制限などが提唱されています。

毎日、子どもたちを診ていると、時間制限を守ることができる子どももいますが、なかなかそうならない子どももいます。ゲームに強くなるのが友達関係の大切な手段になっていたり、将来「ゲーマー」を目指して真剣になっていたりする子どももいます。また、

ゲームをすることが、学校や家庭でのストレス解消の大切な手段であるような子どももいます。そういう子どもと接していると、われわれ大人は、単に子どもに時間を制限させることで十分とはどうしても思えません。現代社会においては、学習の要求水準の上昇で放課後友達と遊ぶ時間が少なくなり、「公園では静かに遊びましょう」という看板が掲げられるような、子どもが大声をだしてのびのびと遊ぶことに寛容でなくなっています。

そのような時代背景の中で、子どもたちの学校や家庭でのストレスやこころのさびしさを、ゲームだけではない現実の豊かな関係の中でどのように発散し満たしていけばいいか、われわれ大人は子どもの気持ちを感じ取りながらいっしょに考えていきたいものです。



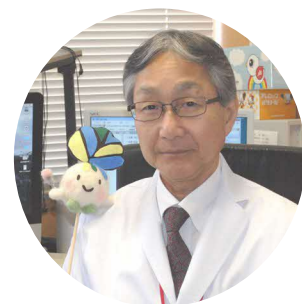
コドモツクルをゆく！



わたし、**もっくちゃん**！みんなとあそびたくて、**こどもつくる**にすんでいるの。
きょうは、こどもつくるのなかを「**たんけん**」にでかけようとおもっているのだけど、
みんな、わたしについてきてくれるかな？



ぶれいこーなーのむこうにはなにがあるのかなあ？
…せんたーちょうしつ???
なんのおへやかしら？



あ！**すずきせんたーちょう**のおへや！ぼそこんがたくさんあるねー。おはなしをきいてみよう！ ふむふむ…

せんたーちょうはね、おうちで おおきないぬをかっついて、まいにち、おしごとがおわってから、たくさんおさんぼしているんだって！

はるからは、こどもつくるやほかのびょういんをもっとすてきなところにするために、べつなところでもおしごとするんだよ。

すずきせんたーちょう、がんばってねー!!!

また、わたしといっしょに、こどもつくるをたんけんしようね！つぎはどこにいこうかな…♪